

- 23 呉 斌, 岩切龍一, 大谷顕史, 綱田誠司, 藤瀬剛弘, 藤本一眞: コーン油長期過剰摂取による大腸発癌の機序. 第45回日本消化器病学会大会. 2003. 10. 15-18 日消誌 100: A683.

研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額(千円)
教授	藤本 一眞	平成15年度文部科学省研究補助金	基盤研究(C)(2)	長期的高脂肪食により誘導されるラット大腸浸潤癌の発生機序の解明	1,200
助教授	岩切 龍一	平成15年度文部科学省研究補助金	基盤研究(C)(2)	小腸粘膜アポトーシスの側面からと腸管内過酸化脂質代謝と大腸癌との関連の検討	600
助手	綱田 誠司	平成15年度文部科学省研究補助金	基盤研究(C)(2)	過酸化脂質継続摂取が腸管粘膜の発癌性に与える影響: 抗酸化物の発癌抑制効果を中心に	700

循環器

著書

- 1 野出孝一: 抗血小板治療の最前線—循環器疾患領域における低容量アスピリンの使い方と可能性. 日経メディカル. 第2版 155-157 2003.
- 2 *森下竜一, 吉田雅幸, 野出孝一, 相川真範: 生活週間病と血管内皮障害—スタチンと ACE 阻害薬の多目的効果が意味するもの. 日経メディカル 第3版 164-167 2003.
- 3 *浅沼博司, 野出孝一, 堀 正二: β 遮断薬 治療薬ガイド2003—2004. 188-193 文光堂. 2003.
- 4 野出孝一, 堀 正二: ANP の心筋炎症抑制作用. 心臓 第35版 51-54 2003.
- 5 野出孝一: 血管を守るために—食後高血糖と動脈硬化. 日経メディカル 第3版 105-108 2003.
- 6 野出孝一, 堀 正二: β 遮断薬 (血管の観点から). VASCULAR SCIENCE 第14号 14-15 2003.
- 7 *山田信博, 代田浩之, 野出孝一, 富永真琴: 食後高血糖/IGT と大血管障害 食後高血糖と大血管障害—IGT の段階からすでに動脈硬化は発症している—. Mebio 別冊 第20版 4-23 2003.
- 8 野出孝一: 食後高血糖/IGT と大血管障害—IGT・糖尿病患者の動脈硬化を診る—血管内皮機能. Mebio 別冊 第20版 65-69 2003.
- 9 野出孝一: 食後高血糖/IGT と大血管障害—IGT・糖尿病患者の動脈硬化を診る—炎症マーカー. Mebio 別冊 第20版 70-75 2003.
- 10 *佐久間一郎, 林登志雄, 秋下雅弘, 野出孝一: 心血管病とエストロゲン—特集: 性差医学の最前線 分子心血管病 第4版 109-120 2003.
- 11 西村ゆき, 野出孝一: 血小板制御—特集: 生体諸システムの制御臓器としての血管内皮細胞. 血管医学 第4版 145-149 2003.
- 12 野出孝一: アトルバスタチンの長期使用効果 GREACE 試験を中心に. Cardiometabolic Syndrome News & Views. 第3号 12-14 2003.
- 13 野出孝一: 大規模臨床試験が示唆する冠動脈疾患の新しい治療ツール: 血管学・最新情報館 1. メ

- ディカル朝日 第32巻 40-42 2003.
- 14 野出孝一：降圧薬の Pleiotropic Effects—その現状と臨床的意義—. THERAPEUTIC RESEARCH. 第24版 641-647 2003.
 - 15 *浅沼博司, 野出孝一：冠循環の生理学：冠循環と心機能—冠循環の基礎. 冠動脈の臨床(上) 日本臨牀 第61巻増刊号4 56-60 2003.
 - 16 *真田正爾, 野出孝一, 北風政史, 堀 正二：虚血心筋：再灌流障害の機序に関する研究の動向—冠循環の病理, 病態. 冠動脈の臨床(上). 日本臨牀 第61巻増刊号4 135-141 2003.
 - 17 野出孝一, Jorge Plutzky：対談 米国の臨床現場における栄養素の位置づけ—大規模試験の結果をどのように生かすか—. メディカル朝日 第32巻 64-66 2003.
 - 18 大森啓造, 野出孝一：糖尿病合併症と血栓 1. 糖代謝異常と血栓形成のメカニズム：血管壁の異常から. 血栓と循環 第11版 12-16 2003.
 - 19 *倉林正彦, 下川弘明, 野出孝一：座談会 21世紀の心血管疾患予防および管理(2). Medical Tribune 5. 29 53-54 2003.
 - 20 野出孝一：スタチンの心筋保護作用—シンバスタチンは慢性心不全にも有効—. Medical Tribune 第36版 26-27 2003.
 - 21 *河盛隆造, 野出孝一, 森 豊：なぜ食後高血糖の抑制は重要なのか—動脈硬化進展メカニズムからのアプローチ. Diabetes Tomorrow 第16号 1-12 2003.
 - 22 野出孝一：糖尿病における動脈硬化—予備軍だって安心できない糖尿病予備軍(IGT). Lpress 第15版 1-2 2003.
 - 23 *藤田雅史, 南都伸介, 北風政史, 堀 正二, 野出孝一：冠動脈の臨床(下)—21世紀の診断治療体系 ADMA (asymmetric dimethyl arginine) と虚血性心疾患. 日本臨牀 61巻増刊号5 867-873 2003.
 - 24 野出孝一：HMG-CoA 還元酵素阻害薬の慢性心不全抑制作用. 臨床薬理の進歩 第24号 108-112 2003.
 - 25 野出孝一, Peter Server, Hans Wedel：座談会 ASCOT (Anglo-Scandinavian Cardiac Outcomes Trial-Lipid Lowering Arm) Study—その意義と臨床に与える影響—. Medical Tribune 38-30 2003.
 - 26 野出孝一：平均ないしそれ以下のコレステロール値を示す高血圧患者におけるアトルバスタチンの冠動脈および脳卒中イベントの予防効果. Summary Report from THE LANCET 第361版 1149-1158 2003.
 - 27 *寺本民生, Peter Server, 島本和明, 代田浩之, 倉林正彦, 島田和幸, 野出孝一, 松崎益徳：座談会 高血圧患者におけるコレステロール低下治療—ASCOT 脂質低下試験の意義—. 日経メディカル 7月号 52-57 2003.
 - 28 野出孝一：心血管系の老化と女性ホルモン—心不全とエストロゲン—. 日本老年医学会雑誌 第40版 332-335 2003.
 - 29 野出孝一：連載：日本人に適した高脂血症治療を考える—フィブラートという選択—第5回 フィブラートの Pleiotropic effect. 血管医学 第4版 445-449 2003.
 - 30 野出孝一, 山崎浩則, 浜野 裕, 中村夏樹：座談会 心血管リスクの総合的な治療を考える—糖尿病, 高血圧をもつ患者さんの脂質管理—. 日経メディカル 8. 佐賀, 長崎, 大分版 1-8 2003.

- 31 野出孝一：女性と心血管疾患—エストロゲンと加齢の関与— 2. 心臓に対する作用. *Healthy Aging* 第5号 4 2003.
- 32 野出孝一：循環器医から見た食後過血糖と血管不全. *糖尿病と炎症* 6-7 2003.
- 33 野出孝一：高血圧合併症患者には積極的なスタチン投与を—ASCOT 脂質低下療法試験の結果を受けて—. *Lip21044103* 2003.
- 34 *都島基夫,野出孝一：対談 微小循環を良くすることで脂質や糖の代謝を改善. *メディカル朝日* 9月号 48-50 2003.
- 35 シンバスタチンに心不全改善効果—佐賀医大・野出教授らの研究で判明—. *Medical Tribune* 第36巻 29 2003.
- 36 野出孝一, Peter Sever, Hans Wedel：座談会 ASCOT Study—その意義と臨床に与える影響—. *Medical Tribune* 特別企画 28-30 2003.
- 37 *寺本民生, Peter Server, 島本和明, 代田浩之, 倉林正彦, 島田和幸, 野出孝一, 松崎益徳：座談会 高血圧患者におけるコレステロール低下治療—ASCOT 脂質低下試験の意義—. *日経メディカル* 7月号 52-57 2003.
- 38 嘉村亜緒衣, 徳島 卓, 野出孝一：急性冠症候群におけるスタチン系薬剤の役割. *The Circulation Frontier* 第7版 32-36 2003.
- 39 野出孝一：教室訪問 佐賀大学医学部 循環器・腎臓内科. *JAPAN CLIPPING TODAY* 10月号 27-29 2003.
- 40 野出孝一, 相川眞範, 森下竜一, 吉田雅幸：座談会 動脈硬化の発症・進展とニフェジピンの血管保護作用—直接作用と間接作用. *CIRC-Review* 第3号 6-10 2003.
- 41 野出孝一：スタチンの心筋炎症抑制作用. *THERAPUTIC RESEARCH* 第24版 No.8 別刷 33-40 2003.
- 42 *大歳健太郎, 山崎義光, 野出孝一：血管拡張因子のインスリン抵抗性への影響—一酸化窒素(NO)・内皮由来過分極因子(EDHF)の検討—. *Heart View* 11月増刊号 230-233 2003.
- 43 *森田啓行, 野出孝一：対談 ホモシステインと心臓病—血中ホモシステイン濃度を低下させる葉酸. *メディカル朝日* 11月号 70-72 2003.
- 44 野出孝一：生活習慣病実地診療のポイント—期待されるスタチンの多面的作用—. *鹿児島市医報* 第500号 91-92 2003.
- 45 野出孝一：内皮由来過分極因子(EDHF). *最新医学* 第722号 2725-2729 2003.
- 46 *梅田文夫, 野出孝一, 井口登與志, 岩瀬正典：軽症糖尿病の治療意義—食後高血糖は心血管イベントの危険因子—. *Nikkei Medical* 11月号 九州・沖縄版 1-4 2003.
- 47 野出孝一, 富永真琴氏：特別企画 エビデンスに基づいた糖尿病の治療戦略—糖尿病専門医と循環器専門医の連携—. *Medical Tribune* 第36版 24-25 2003.
- 48 野出孝一, 諸岡俊文：単行本 ファーマナビゲーター Ca拮抗薬編 「スタチン」. *メディカルレビュー社* 182-188 2003.
- 49 野出孝一：特別企画 CHARM に学ぶ「心保護」を意識した降圧療法. *Medical Tribune* 第36版 16-17 2003.
- 50 野出孝一, 上村春甫, 貝原良太, 池田秀夫, 田中裕幸：座談会 各種愁訴を有する中高年女性の高血圧症に対する至適降圧療法を考える. *Medical Tribune* 第36版 14-15 2003.

- 51 浅沼博司, 野出孝一, 堀正二: 治療薬ガイド2003~2004— β 遮断薬—. 文光堂 188-193 2003.
- 52 野出孝一: 生活習慣病がもたらす心臓疾患—心筋梗塞・不整脈から命を守る. 朝日新聞 2. 17. 6 2003.
- 53 野出孝一, 名和田新, 中田久美: 食後高血糖の改善で糖尿病, 動脈硬化の進行を阻止. 西日本新聞 2. 23 8 2003.
- 54 野出孝一: 高血圧の心血管疾患の発症抑制. 産経新聞 7月30日 17 2003.
- 55 野出孝一, 山崎浩則, 浜野 裕, 中村夏樹: 座談会 心血管リスクの総合的な治療を考える—糖尿病, 高血圧をもつ患者さんの脂質管理—. 日経メディカル 8. 2003.
- 56 平瀬徹明, 川嶋成乃亮: 内皮細胞の管腔形成における glycogen synthase kinase-3 β の役割. 血管の発生と新生—基礎と臨床—メディカルレビュー社 2003.
- 57 野出孝一, 堀 正二: ANP の心筋炎症抑制作用. 心臓 第35巻 51-54 2003.
- 58 真田昌爾, 野出孝一, 北風政史, 堀 正二: 冠動脈の臨床 21世紀の診断治療体系 冠循環の病理, 病態 虚血心筋 再灌流障害の機序に関する研究の動向. 日本臨牀 第61巻増刊 4 135-141 2003.
- 59 橋本愛子, 野出孝一: 抗高脂血症薬 スタチンと高血圧. 血圧 第10巻 1007-1011 2003.
- 60 野出孝一: 血管不全と炎症の関わり. 医学と薬学 第50巻 449-469 2003.

学術論文

- 1 *Asakura M, Takashima S, Asano Y, Honma T, Asanuma H, Sanada S, Shintani Y, Liao Y, Kim J, Ogita H, Node K, Minamino T, Yorikane R, Agai A, Kitamura S, Tomoike H, Hori M, Kitakaze M: Canine DNA array as a potential tool for combining physiology and molecular biology. *Circ J.* 67: 788-792, 2003.
- 2 Node K, Fujita M, Kitakaze M, Hori M, Liao JK: Short-term statin therapy improves cardiac function and symptoms in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy. *Circulation.* 108: 839-843, 2003.
- 3 *Ogita H, Node K, Asanuma H, Sanada S, Takashima S, Minamino T, Soma M, Kim J, Hori M, Kitakaze M: Eicosapentaenoic acid reduces myocardial injury induced by ischemia and reperfusion in rabbit hearts. *J Cardiovasc Pharmacol.* 41: 964-969, 2003.
- 4 *Yoshioka J, Node K, Hasegawa S, Paul AK, Mu X, Maruyama K, Nakatani D, Kitakaze M, Hori M, Nishimura T: Impaired cardiac response to exercise in post-menopausal women: relationship with peripheral vascular function. *Nucl Med Commun.* 24: 383-389, 2003.
- 5 *Asanuma H, Node K, Minamino T, Sanada S, Takashima S, Ueda Y, Sakata Y, Asakura M, Kim J, Ogita H, Tada M, Hori M, Kitakaze M: Celiprolol increases coronary blood flow and reduces severity of myocardial ischemia via nitric oxide release. *J Cardiovasc Pharmacol.* 41: 499-505, 2003.
- 6 *Sanada S, Node K, Minamino T, Takashima S, Ogai A, Asanuma H, Ogita H, Liao Y, Asakura M, Kim J, Hori M, Kitakaze M: Long-acting Ca²⁺ blockers prevent myocardial remodeling induced by chronic NO inhibition in rats. *Hypertension.* 41: 963-967, 2003.
- 7 諸岡俊文, 辻 信介, 有尾啓介, 藤松大輔, 吉田和代, 徳島 卓, 宇都宮俊徳, 野出孝一: 洞不全症候群, 部分的心房停止, 心房頻拍を呈した孤立性左室心筋緻密化障害の1例. 不整脈 19:

372-376, 2003.

- 8 野出孝一：老化とホルモン 心血管系の老化と女性ホルモン 心不全とエストロゲン. 日本老年医学会雑誌 40: 332-335, 2003.
- 9 *北風政史, 真田昌爾, 野出孝一, 宮崎純一, 葛谷恒彦, 高島成二, 朝倉正紀, 扇田久和, 堀 正二: プリン代謝性内因物質アデノシンの産生代謝系変異による心血管保護作用の究明及びその新治療法への応用. 代謝異常治療研究基金研究業績集 30: 93-97, 2003.
- 10 諸岡俊文, 琴岡憲彦, 西村ゆき, 藤松大輔, 松尾修介, 吉田和代, 徳島 卓, 辻 信介, 大森啓造, 宇都宮俊徳, 松尾修三, 吉村 達, 久富昭孝: インスリン抵抗性と冠動脈疾患 当院における検討. Therapeutic Research 第24巻 204-209 2003.
- 11 大森啓造, 吉田敬規, 橋本愛子, 琴岡憲彦, 諸岡俊文, 龍 俊宏, 吉田和代, 尾形 徹, 徳島 卓, 辻 信介, 宇都宮俊徳, 松尾修三: 心不全患者の心機能及び長期経過に及ぼす Pimobendan の効果. 臨牀と研究 第80巻 562-569 2003.
- 12 下村光洋, 諸岡俊文, 宇都宮俊徳, 藤松大輔, 松尾修介, 龍 俊宏, 吉田和代, 徳島 卓, 辻 信介, 大森啓造, 井上純一: Peripheral Neuro-fibromatosis (NF-1) に肺動脈弁狭窄症を合併した Watson syndrome の1例. 臨牀と研究 第80巻 117-120 2003.
- 13 *古賀久士, 川崎友裕, 挽地 裕, 近藤克洋, 白石隆吉, 橋本愛子, 蒲原啓司, 吉戒 勝, 古賀伸彦: 自然閉鎖した心筋梗塞後心室中隔穿孔 (VSP) の1例. 心臓 第35巻 639-643 2003.
- 14 藤松大輔, 林田 潔, 富永正樹, 入江康司, 堺 正仁, 河合祥雄: 壊死性好酸球性心筋炎の1例. 心臓 第35巻 581-587 2003.
- 15 *Hiraoka E, Kawashima S, Takahashi T, Rikitake Y, Hirase T, Yokoyama M.: PI 3-kinase -Akt-p70 S6 kinase in hypertrophic responses to leukemia inhibitory factor in cardiac myocytes. Kobe J Med Sci. 49: 25-37. 2003.
- 16 *Kawashima S, Yamashita T, Miwa Y, Ozaki M, Namiki M, Hirase T, Inoue N, Hirata K, Yokoyama M.: HMG-CoA reductase inhibitor has protective effects against stroke events in stroke-prone spontaneously hypertensive rats. Stroke. 34: 157-63 2003.
- 17 Kotooka N, Nagaya N, Tanaka R: Pulmonary artery sarcoma. Heart. 89: 1388 2003.

学会発表

- 1 野出孝一：ランチョンセミナー「スタチンの心筋保護作用」. 日本循環器学会総会・学術集会. 2003, 3, 29.
- 2 吉田和代：ポスターセッション「APACHE III, LOD, SOFA; Comparison of Predictive Usefulness of Multiple Organ Dysfunction Scores for the Mortality in Acute CHF」日本循環器学会. 2003, 3, 30.
- 3 野出孝一：シンポジウム「心血管イベント発症予防におけるスタチンの有用性—不安定プラークの安定化—」. 第22回日本脳神経超音波学会. 2003, 4, 25.
- 4 野出孝一：ランチョンセミナー「食後高血糖と血管不全」. 日本内分泌学会学術総会. 2003, 5, 11.
- 5 野出孝一：ランチョンセミナー「血管からのアプローチ—食後高血糖と血管不全—」. 第46回日本糖尿病学会年次学術集会. 2003, 5, 22.
- 6 野出孝一：ランチョンセミナー「NO と血管内皮機能」. 日本麻酔学会学術集会. 2003, 5, 25.

- 7 野出孝一：シンポジウム「NOの心血管保護作用」．第三回日本NO学会学術集会．2003，5，29．
- 8 野出孝一：ランチョンセミナー「NOと心筋保護における最新の動向」．日本麻酔科学会第50回学術集会．2003，5，31．
- 9 野出孝一：シンポジウム「心疾患に対する薬物療法：エビデンスはどこまで蓄積されたか？—スタチン—」．JCC教育プログラム．2003，9，7．
- 10 野出孝一：教育講演会「糖尿病合併症の最前線—大血管合併症」第41回日本糖尿病学会九州地方会．2003，10，17．
- 11 野出孝一：モーニングレクチャー「糖尿病性心不全とBNP」．第7回日本心不全学会学術集会．2003，10，24．
- 12 野出孝一：シンポジウム「慢性心不全患者に対するスタチンの有効性」．第7回日本心不全学会学術集会．2003，10，25．
- 13 野出孝一：シンポジウム「冠動脈疾患—病態，診断，治療をめぐって—」．第44回日本脈管学会総会．2003，11，7．
- 14 野出孝一：教育講演会「虚血性心臓病の診断と治療—今後の展望—」．第28回日本内科学会九州支部主催生涯教育講演会．2003，11，16．
- 15 野出孝一：ランチョンセミナー「生活習慣病実地診療のポイント—期待されるスタチンの多面的作用」．Complex Catheter Therapeutics 2003．2003，10，23．
- 16 橋本重正，上羽洋人，黒木昌寿，名畑あおい，池田奈保子，小林信彦，安 隆則，齊藤宗靖，川上正舒：「単球・血管内皮細胞の相互作用による血管内皮細胞のアポトーシス抑制にはERK1/2が関与する」第35回日本動脈硬化学会総会．2003，9，28．（抄録集，p181，2003）
- 17 Kotooka N, Yasumura Y, Suzuki S, Aihara N, Oya H, Tsutsumi Y, Terashima M, Noguchi T, Goto Y, Takaki H: Improvement in Ventilatory Efficiency after Exercise Training Combined with Beta-Adrenergic Blocker Therapy in Patients with Dilated Cardiomyopathy. 第67回日本循環器学会年次学術集会 2003, 3, 28. (Circulation Journal 67 suppl. I: 292, 2003)

代謝・内分泌

著 書

- 1 山本匡介：フィブラートは原発性胆汁性肝硬変症に有効と聞きましたが？．寺本民生 編：フィブラート系薬剤Q&A．第1版 80．医薬ジャーナル社．大阪 2003．
- 2 山本匡介：脂肪肝．山口 徹，北原光夫 編：今日の治療指針2003年版．第1版 363．医学書院．東京 2003．

学術論文

- 1 *Chen Y, Knosel T, Kristiansen G, Pietas A, Garber ME, Matsushashi S, Ozaki I, Petersen I: Loss of PDCD4 expression in human lung cancer correlates with tumour progression and prognosis. J. Pathol. 200: 640-646, 2003.
- 2 江口有一郎，山本匡介：脂肪肝．臨床と研究 80：281-284，2003．
- 3 久富昭孝，山本匡介：肝疾患にみられる高コレステロール血症．Medical Practice 20: 110-112, 2003.
- 4 °Matsunaga K, Iwakiri R, Hara M, Sakata H, Ogusu T, Shimoda R, Oda K, Utsumi H,